（様式3）　　令和　4　年度

令和4年　ソラスト川間外部評価報告書

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1291300224		
法人名	株式会社　ソラスト		
事業所名	ソラスト川間		
所在地	千葉県野田市中里1564-2		
自己評価作成日	令和　4年　11月　18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　ヒューマン・ネットワーク
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10－15
訪問調査日	令和　4年　12月　9　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームが地域の中で孤立せずに地域の一員として存在できる状態を目指しているため、自治会の集まりや地域活動の参加、レク、行事などへ参加している。コロナウイルスの影響で地域活動への参加や外出行事が自粛されているため、現在は室内行事や調理レクに力を入れています。ボランティア活動については緩和に伴い感染予防の上再開頂きました。また、地域防災の観点から消防訓練の際に近隣の方々の参加を得て実施している。さらに運営推進会議の開催など家族からの意見・要望などをケアに反映させている。訪問診療、訪問看護、訪問歯科とも医療連携を図り、医療面でもご家族様に安心して頂けている。ケアの資質向上のため職員全てが認知症を理解すると共に、ソラスト川間の理念でもある「ゆったりといつも一緒に」を心掛けて、入居者の皆様が安心してゆったりとした生活が送れるように常日頃から心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

良い点その①理念実践の為の施設標語『正しい言葉遣い』『笑顔がある介護現場』を掲げ、チームで支えるを共通の認識の下支援が行なわれている。不適切な言葉遣いにはその都度指摘し合い改善が行なわれ、結果として笑顔溢れる施設となっており、「安心して暮らせる地域社会」に貢献する法人理念に向かって努力が傾注されている。その②今年度から法人からの研修が本格化し、職員全員にeラーニングとして1・認知症2・虐待3・感染など順次実施され職員は受講してアンケートを提出している。個人間格差が推測される事を踏まえ、色々な疑問・質問など気軽に話し合いがもたれ共通認識になる様努力が傾けられている。その③今年度クラスター発現の残念な事態にも職員全員で協力し解決に当たった。この事は平素の職員間のコミュニケーションが良好で施設の力となっていて、アンケート結果にも利用者家族から職員はほぼ全員「生き生きと働いている」と評価を得ている。職員は伸び伸びと笑顔で支援が行なわれている施設である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示してあり周知、日頃のケアに生かそうと努めている。「ゆったりといつも一緒に」という事業所理念の実行に心掛けている。また、今年度から新企業理念「私たちは、人とテクノロジーとの融合により、「安心して暮らせる地域社会」を支え続けます。と一新され、会社全体、事業所全体として共有し実践につなげている。	左記のとうり法人理念が発せられ当施設として理念に寄り添う支援が出来るかを話し合い「正しい言葉遣いを心掛ける」「入居者よスタッフが何時も笑顔で過ごせる施設」と決め、不適切な言葉遣いには職員同士で指摘し改善に努め、法人理念の実践に努めている。	分り易い標語を決め日々の支援の中で何時も笑顔で暮らせる施設を目標としている。職員の言葉遣いなど改善出来たと判断した時は、職員で話し合い新しい標語の下、「地域社会を支え続ける」の法人理念の実践に繋げる事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、自治会に加入しており、近隣の方が雑草の手入れのお手伝いに来ていただいている。入居者が地域と交流する機会は年に何度か設けている。 現在は感染予防のため外出自粛をお願いしているため交流は減っている。	コロナ禍で今まで出来て居た町内、提携病院の健康祭り・クリスマス・七夕や市役所・公民館での体操・ふれあいサロン等で地域の人と交流し。また、ボランティア活動として草取り・習字・歌等、利用者の楽しみが再開出来るよう地域との連携は継続している。利用者が地域の一員として生活出来る環境作りを前向きに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は認知症講座を開いたこともあったが、現在は行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の運営推進会を行っていたが、本年度は感染予防の観点から書面開催となり、直接の意見交換は行えていませんが、意見や要望があれば反映しています。	コロナ禍の現状から参加が厳しい状況の中、書面での意見聴衆・改革案などを求め会議開催の仕組みの工夫を行なった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本年度は感染予防の観点より運営推進会議は書面開催、介護相談員派遣は中止となっていますが本来は、運営推進会議に参加いただき意見交換をしている。また、介護相談員が来て入居者の声を聞きケアに反映している。	ホームからは事故報告・感染症等の報告を行い、行政からのメールやファックスで研修案内・感染症対応・災害時対策等の情報を活かしワクチン接種などを実施した。事業者協議会では講習会への参加や情報を活かし協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ソラスト川間では身体拘束は行いません。 イーラーニングにて全社員身体拘束研修を学んでいる。	法人の年間目標として「拘束しない」を掲げ、今年度よりeラーニングで職員全員が研修を行なう仕組みが構築され、研修後アンケートを提出している。虐待の研修では何が虐待に当たるかを気軽に話し合いを行なって共通認識になる様管理者は配慮している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、虐待防止マニュアルを全職員周知している。 イーラーニングにて全社員虐待防止研修を学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に学ぶ機会はないが、必要性に応じて自己学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様の要望を確認しながら十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やお電話、運営推進会議で意見や要望を聞いて いる。出た意見については真摯に受け止め、可能な限り要望に沿えるようカンファレンスで話し合うこともある。	コロナ禍では面会もままならず、利用者家族には事ある毎に報告と相談を行ない、又家族からの電話連絡には迅速に対応している事もアンケート結果から安心と満足に繋がっている事が窺えた。来れない家族には医療面等の変化時には電話をし要望も聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、主任会議、個人面談で反映させている。	職員意見を話しやすくする為、コミニケーッションが大切との考えから、些細な事や希望・要望など何でも話しやすい雰囲気が職場文化として醸成されている。今年度コロナクラスターの時など職員は柔軟且つ積極的な協力で困難をのりきった。職員は自信と意欲に溢れ家族からはほぼ全員が生き生き働いているとの評価を頂いている。	今年度から始まったeラーニング研修について職員それぞれが受講しているため、理解のレベルの違いが推測される事を踏まえ、研修後の話し合いを会議で取り上げたり、会話する事で共通の理解を得られる事を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績に応じたポイント付与（Thanks point）を毎月管理者より職員に届けている。 年2回のキャリアパス評価面談にて昇給の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の参加を促している。 実際に社内の介護技術研修やリスクマネジメント研修などに参加している。 またイーラーニングで定期的に研修、自己学習している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や研修を通じ他事業所とも交流を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行い、ニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的に連絡、報告し家族の要望を生かせるよう努めている。また要望をケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントで一番困っている課題を優先して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事等でも一緒に食事を作ったり食べたり、創作をしたり寄り添って触れ合うことで関係性を築いている。 毎日一緒に過ごすことで「馴染みの関係」が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会時やお電話で日頃の様子をお伝えしている。 病院受診の付き添いをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪ねてくれるため、事業所として歓迎している。 入居者同士での関りが出来ている。入居者が誘い合ってトランプをしたり、自然に昔の話で盛り上がっている。	コロナ禍での家族との面会の解除の工夫として、予約制の導入、時間制限又電話の活用など家族との繋がりを大切する為色々工夫を取り入れている。法人で準備している機器を使った面会が有るが、家族の不慣れもあり機能していないのは残念であり今後期待したい。入居者同士が馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者が会話できるよう隣の席に座っていただいている。相性の悪い方は互いの行動が気にならないよう職員が配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移った後の相談はあまりないが、提携病院への入院、退去の場合は経過を見守り、家族からの相談があれば応じている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、家族や本人から聞き取りをしている。 毎日の生活の中から把握するよう努めている。	入居時には利用者の生活歴や趣味等をアセスメントに記録し共有している。利用者の日常の状態やケア内容は詳細に経過支援記録に記録し、利用者の云った言葉をそのまま記録し、分からない事は家族に確認をして意向の把握に努めている。受診記録等重要な点は連絡ノートで共有し看護師に相談している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取り調査で本人や家族から聞いたことをまとめ、スタッフ間で周知している。 入居前アセスメントをきちんと行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日報に24時間の入居別の記録を記入し、申し送りにて把握に努めている。 日常的に観察し日誌に記録し職員で周知している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度ケアカンファレンスを行い、ニーズについて検討し、モニタリングをし1ヶ月後評価している。 現状に要した介護計画を作成している。	全職員が参加して変化のある利用者を中心にケア会議が行われている。居室担当の意見を基にどういう対応をするか等の話し合いが行われ、ケアマネージャーがケアプランを作成している。毎月モニタリングではケアの仕方を勝手に変えないで話し合い、すり合わせをしている。また、利用者の状態とケアプランが違う時は連絡ノートに記録して話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの様子を記録して職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。 日々の様子を個別の記録に残し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲で行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	習字教室、歌、傾聴、編み物等のボランティアの方4名にお越し頂いており、ご利用者様が楽しまれて参加されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院に受診。希望に応じて本人のかかりつけ医師に受診している。訪問診療も利用。 いつもと様子が違うときは早期受診をし、受診記録に残している。	かかりつけ医の継続を希望する家族を支援し、殆どの利用者は提携医療機関に変更している。往診は月2回行われ、毎週訪問看護による健康管理と往診医に同席して職員の相談・助言を行ない、薬剤師も同席して薬の処方と服薬管理が行われている。受診後には「訪問診療報告書」で情報共有し家族に報告をしている。体調変化時には早めに相談と受診できる医療連携が構築されて家族の安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に連絡相談している。 訪問看護を利用し指示をもらい受診支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院とは密に情報共有を行っている。 入院時に必要があれば説明の場に同席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る限り本人や家族の希望に添えるように話し合いを行い、提携病院や訪問看護の協力を得ながら支援をしている。 ターミナルケアは行っていないが家族、医師、職員、ケアマネージャー、管理者で方針を共有して支援している。	入所時「重度化した場合の対応についての指針」で施設のできる範囲を具体的に説明し納得を得ている。終末や重度化の時は主治医・家族・ホームで話合い、医師の意見や家族の希望する方向を尊重して対応がなされている。法人としてターミナルケアについてマニュアルは整備されているが、職員の精神面等の負担緩和について十分な教育をしてからと慎重に検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し回覧、掲示している。 救急救命講習は新人職員以外は既に受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハザードマップの掲示、年2回、消防署指導のもと消防訓練を行っている。 地域の方にも協力頂いている。 本年度も感染予防の観点より職員のみで実施。	消防訓練は消防署員立ち会いの下、地域の人も参加して夜間想定の台所からの出火による「初期消火・避難誘導・通報・水消化器等」の訓練を行なっていたが、コロナ禍では消防・住民参加では出来て居ない。訓練結果を書類にて消防に報告を行なっている。訓練は新人や習熟度の低い職を優先に参加させて非常時の備蓄として食料・水等の備えが出来ている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには施設全体で注意している。 施設目標には「正しい言葉遣いを心掛ける」を掲げている。	施設目標として「正しい言葉遣いを心掛ける」を掲げ、敬意を基本にして、その人に寄り添った支援が尊厳を大切にすることと考えている。日常の会話の中で不適切な声かけにはその場で注意し、優しい丁寧な言葉がけを心がけている。個別のケアや否定しないケアを心掛け、個人の尊重に配慮した支援からアンケート結果からも、職員は優しいとの評価の声があった。トイレ・入浴時には扉を閉め、居室はノックと挨拶をしてプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけてはいるが希望を表せない利用者は職員のペースになりがちである。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の希望に沿った支援は全ては出来ていないが、その人に合った日課（散歩、家事、掃除など）に 添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣類を選べない人は職員がコーディネートしている。 家族と外出するときは、本人の気に入った物を選んでもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの影響であまり外出ができないため、毎月の行事や誕生会では食べたいものを利用者に確認し、お弁当をテイクアウトしたり、皆で調理をして楽しみを作っている。米研ぎや盛り付け、食器拭き等もお手伝い頂ける方にはお願いしている。	コロナ禍で外食支援が出来ない昨今、大いな楽しみである食事の充実を図り、職員と一緒に工夫を行なった。毎月イベント食事会として、リクエストでメニュウを決め、出来る事を利用者と一緒に行ない、皆で食べる事で食事風景は大いに盛り上がっている。一例として、誕生月の人の要望のラーメン作りや、リクエストからの焼き蕎麦・季節の野菜カレー等利用者と一緒に作る楽しみ、食べる楽しみを味わった。職員は利用者の笑をを看て更にやる気が出てきている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表に記載している。水分摂取の少ない人には水分表を用いて支援している。 食事形態を工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きを促し、出来ない方にはお手伝いしている。 訪問歯科にも協力いただき定期的な口腔ケアを実施している。 夜間ポリデントに浸け置きしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて排泄パターンをつかみ支援している。 排便の相談を訪問診療や訪問看護でもしている。	排泄チエック表からパターンでの時間で声かけを行い、表情・仕草を読み取って適切な誘導を心掛けて自立排泄を支援ている。大きな声での声かけはしないでプライバシーや尊厳に配慮し、拒否の時は時間をずらし・人を変る等の対応をして心配りしている。排便量や状態から体調を推察して、どう対応するかを皆で意見出し合い、水分摂取を増やか受診するか等判断している。適切な声かけの結果からおむつの量を減らせた好事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日おやつに牛乳を提供したり、水分が不足しないよう声掛けで飲んで頂いたりして便秘にならないよう工夫している。必要に応じて医師に相談し便秘薬を処方してもらう。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表を作成し順番に個別で入浴している。 体調も考慮し、拒否のある方は無理に入浴することはしない。	入浴前にはバイタルチエックを行って体調を確認し、気分にも配慮して楽しみな入浴時間になるような支援をしている。個人の好みの合わせて早め・遅めの入浴時間にも配慮している。拒否する人には時間・人を替えて声かけをして入浴に繋げる事もある。浴室内外の温度を調節してヒートショック対策や転倒等安全面への配慮、皮膚・痣の点検やオイル・軟膏塗布を行う等健康面にも配慮した支援が行なわれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人休憩する時間がもてるように支援している。 体力の弱ってきた方は休息時間を増やしたり、元気な方は日中活動して夜に睡眠が安定するよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診結果の申し送りや薬の説明書で理解している。 訪問診療の方は薬局に管理してもらい、服薬指導や相談を行ってもらっている。 服薬確認は全員が行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の希望に対応できていないが職員と一緒に季節に応じた創作やゲーム、家事手伝い等をしていただいたり支援している。 食事作りの中で米研ぎ、盛り付け等力を活かした役割がもてるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出は自由に行っている。 社用車を活用し、一部の方には買い物、外食等の外出支援を行っている。	コロナ禍の今、毎日の外出はできないが、なるべく午前・午後と手分けして2～3人ずつ歩ける人と車椅子の人との組み合わせで施設の周りの散歩を心かけている社用車を使って利用者全員での外出機会は予定しているが実施は難しい。廊下での歩行訓練やウッドデッキでのお茶会での会話を楽しむなど工夫を取り入れている	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特に支援はしていない。 家族の了承を得て所持している方はいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望がある場合には職員が本人の前で掛けてから代わるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や気候、温度などによって窓を開けて外気を取り入れたり、寒くなり日のあたる場所が暖かければ窓際に座ったりを心掛けている。また季節にあった掲示物を飾ったりしている。	共有空間では集団で生活する場としてテーブル・椅子・ソファを配置してテレビを観て、仲の良い同士での談話しながらゆっくりと過ごしている。洗濯物の整頓・カラオケ等の楽しみな時間を作って一日の中で長く楽しむことができるように工夫している。また、リビングの温度・湿度を管理し快適な空間となるよう配慮している。皆で作る季節毎の節分の鬼の面・ひな祭り・七夕等の貼り絵や写真を飾って季節を感じる取り組みが行われている。今年度法人方針として、カメラを配置し安全面の確認や支援の仕方のチエックに活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席の他にソファーやTVがあり自由に過ごせるようにしてある。ソファーを使い工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参頂いたりもしている。 家族と一緒の写真や、自分の作品等を飾っている方もいる。	愉快慣れた家具や、思い出のアルバム等各々自由に持ち込んでいて家庭生活の延長になるよう飾りつけされた居室となっている。法人の方針として個室に「見守りカメラ」を家族の同意をえて設置した。事故や夜間対応などの改善の為に大いに役立っている。又職員の意識にも変化が有り、個室での対応にも丁寧・親切な支援が出来ていると感じている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはネームプレートを設置してわかるようにしている。トイレ、廊下、浴室には手摺りが設置されており、安全に移動し自立した生活が送れるようにしている。		

目標達成計画

作成日: 令和　4年　11月　18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		コロナ感染拡大(予防)に伴い、外出行事等が行えず、ご利用者からも外に行きたいとの声が上がっている。	外出行事や外食等は感染リスクを伴うため当面は控える。他の方法で気分転換を行うようにする。	天気が良い日の散歩やウッドデッキを活用した外気浴、ドライブ等の日課や行事回数を増やし、ご利用者のストレス緩和に繋げられるよう取り組む。	1月
2		7月下旬から8月にかけて、1ユニット内で14名のコロナ感染(クラスター)が発生。第8波に備え継続して感染予防をしているが、職員が数名感染すると業務にあたる職員が限られ人員確保体制が困難になる。	感染予防を徹底し、感染拡大を防ぎ、クラスターにならないよう取り組む。 事前に職員不足時の対応策を協議しておき、感染者が出た場合には早期に他事業所に応援を依頼し利用者の安全を最優先にしていく。	体調不良者の出勤制限、出勤時の検温チェック、マスク着用の徹底、外出、面会の制限を周辺の感染状況を踏まえ都度変更していき、感染者を出さないよう取り組む。またワクチン接種の推奨、定期的なPCR検査の実施を行い無症状の方の感染の早期発見に努める。	1月
3					
4					
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。